

公共図書館員のための
医療情報サービス研修会
in大阪

2015年1月29日

於：豊中市立岡町図書館

医療健康情報サービスのすすめ — 研修会へようこそ —

田村俊作
(慶應義塾大学)

私たちの研究

文部科学省科学研究費補助金による研究「アクション・リサーチによる公共図書館 課題解決サービスのデザイン」
(研究代表者: 田村俊作)

研究の目的

公共図書館がどのようなサービスと運営によって、医療の改善や地域の健康づくりに貢献できるかを考えること

市民にとって

- 健康はみんなの関心事
 - 一方図書館は
 - 費用がかからない
 - 日常的に利用する身近な存在
 - 行政が提供してくれるものだから安心
- ➡ 身近な情報源

図書館にとって

- あらゆるジャンルの本を持っている。医療や健康の本も、もちろん
- 図書館のさまざまなジャンルの蔵書を、求める人たちにもっと近づけて、活用してもらおう
- 市民の誰もが関心を持っている医療や健康に関する本を、もっと利用者に活用してもらおう

日本図書館協会健康情報委員会が
2013年度に行ったアンケート調査から

公共図書館における「健康・医療情報サービス」の実施状況

	回答件数	比率	
実施中	128	13.8%	15.4%
実施を決定し、 現在、準備中	15	1.6%	
検討したが実施を 見送った	17	1.8%	
実施するかどうか 検討中	101	10.9%	
未検討	665	71.7%	
未回答	2	0.2%	
合計	928	100.0%	

須賀千絵 第100回
全国図書館大会第21
分科会 明治大学,
2014-11-01

サービスの効果と課題

効果

- レファレンスや案内がしやすくなった(81.3%)
- 図書館のPRができた(53.1%)

課題

- 専門知識を持つ職員の確保・育成が難しい(64.8%)
- 選書が難しい(57.8%)
- レファレンス対応が難しい(57.0%)

そこで今回の企画になりました

- どんな本を選べば良いのだろうか？
- 怪しげな本をリクエストされたらどうすればいいのだろうか？
- 本以外にどんな情報源があるのだろうか？
- 図書館ではとても答えられないような質問が来たらどうしようか？
- 他の図書館はどんなことをしているのだろうか？
- 医学の知識もないのにサービスなんてできるのだろうか？どうしたら必要な知識を身につけることができるのだろうか？

本日の研修会の目標

1. 病気になったときに求められる情報，患者さんや家族の方が医療機関や図書室に寄せる相談のあらましを知る
2. 患者さんや家族の方のニーズを念頭に，サービスで提供する本の選び方について，本を手に取りながら皆で考える
3. 今日は公共図書館員の他に，がん相談支援センターの方，患者図書室関係者，支援団体や関係機関の方も参加されている。せっかくの機会なので，お互いに交流し，今後につなげよう

本日のプログラム

<午前>

10:00-10:15	医療情報サービスの現状と可能性	田村俊作
10:15-10:35	病気になったときに求められる情報	高山智子
10:35-10:55	がん相談支援センターで受ける相談	萬谷和広
10:55-11:15	患者図書室で受ける相談	新子雅代
11:15-12:00	患者図書室における選書、蔵書構成に基づいたサービス	押田いく子
12:00-13:00	(お昼休み)	

<午後>

13:00-14:30	こわいことあらへん！医学情報サービス ー選書とレファレンスー	塚田薫代
14:30-14:45	(休憩)	
14:45-16:30	医療情報サービス・ワークショップ	
16:30-17:10	医療情報サービス運営の実際	
	<事例1> 広島市立図書館	
	<事例2> 豊中市立岡町図書館	
17:10-17:30	館内見学・休憩	
17:30-18:30	懇親会	

ご注意いただきたいこと

- 昼食は各人が近くのお店でおとりください
- 懇親会ではお飲み物とスナック菓子を用意しています。お互いに顔見知りになるチャンスですので、ぜひご参加ください

それでは、今日一日
よろしくお願いいたします